

18番の歌 贖いに感謝する

贖いから学べること

「このことから、神が私たちが愛してくださっていることが明らかになりました」。ヨハネ第一4:9神は独り子を世に遣わし、その方によって私たちが命を得られるようにしてくださいました。このことから、神が私たちが愛してくださっていることが明らかになりました。

ポイント：贖いは、エホバ神とイエス・キリストの愛や公正を明らかにしています。

1. キリストの死の記念式に毎年出席するのが大切なのはどうしてですか。

贖いは何よりも素晴らしい贈り物です。（コリ二 9:15言葉にできないほど素晴らしい無償の贈り物を下さる神に感謝しましょう。）イエスが人間としての命を犠牲にしてくれたので、私たちはエホバ神との強い絆を持つことができます。永遠に生きる見込みもあります。愛の気持ちから贖いを与えてくれたエホバに感謝したいと思うのではないのでしょうか。（ロマ 5:8しかしキリストは、私たちがまだ罪人だった間に、私たちのために死んでくださいました。そのことにより、神はご自分の愛を私たちに示してくださっています。）私たちが感謝の気持ちを忘れず、贖いを当たり前のもものと見なさないようにするために、イエスは、年に1度、ご自分の死を思い起こす記念式を行うよう命じました。（ルカ 22:19, 20また、イエスはパンを取り、感謝の祈りをしてから、それを割って渡し、こう言った。「これは、あなたたちのために与えられる私の体を表しています。このことを行っていく、私のことを思い起こし(*記念し)なさい」。20 また、食事が済んでから、杯についても同じようにして、こう言った。「この杯は私の血による新しい契約を表しています。それはあなたたちのために注ぎ出されることになっています。）」

2. この記事ではどんなことを考えますか。

2 今年の記念式は2025年4月12日、土曜日に行われます。皆さんも出席する計画をしていることでしょう。記念式の時期に、エホバとイエスがしてくれたことについて時間を取ってじっくり考えるのは大切です。①この記事では、贖いからエホバとイエスについて学べることを考えます。②次の記事では、贖いが私たちの幸せとどう関係しているか、贖いに感謝していることをどのように表せるかが分かります。

贖いからエホバについて学べること

3. 1人の人が死ぬことによって、多くの人を贖うことが可能になったのはどうしてですか。（挿絵も参照。）

3 贖いからエホバの公正について学べます。（申 32:4神は岩のような方で、行うことは完全、神の道は全て公正である。決して不公正ではなく、信頼できる神。正しく、真っすぐな方。）

どうしてそういえるのでしょうか。私たちは不従順なアダムから罪を受け継ぎ、死ぬようになりました。（[ロマ 5:12](#)このような訳で、1人の人によって人類に罪が入り、罪によって死が入り、こうして、全ての人が罪人になったために、死が全ての人に広がったように一。）エホバは、私たちを罪と死から自由にするためにイエスを贖いとして与えてくださいました。でも、どうして1人の完全な人間の犠牲が多くの人を贖うことができるのでしょうか。使徒パウロはこう説明しています。「1人の人[アダム]の不従順によって多くの人が罪人になったように、1人の人[イエス]の従順によって多くの人が正しい人になるのです」。（[ロマ 5:19](#) 1人の人の不従順によって多くの人が罪人になったように、1人の人の従順によって多くの人が正しい人になるのです。[テモ 2:6](#) 全ての人のための対応する贖い（用語集:捕らわれた状態, 処罰, 苦しみ, 罪, あるいは何らかの義務から人を解放するために支払われる代価。金銭とは限らない。）として自分を与えました。このことについては、定められた時に語られることになっています。）考えてみると、私たちは1人の完全な人間の不従順のせいで、罪と死に捕らわれるようになりました。それで、1人の完全な人間の従順のおかげで、罪と死から自由になることができます。



私たちは1人の人のせいで罪と死に捕らわれるようになった。同じように、1人の人のおかげで罪と死から自由になれる。（3節を参照。）

4. エホバが単に、アダムの子孫の心の正しい人が永遠に生きられるようにしなかったのはどうしてですか。

4 イエスは私たちが救うために本当に死ななければならなかったのでしょうか。エホバは、アダムの子孫の心の正しい人が永遠に生きられるようにすればよかったのではないのでしょうか。不完全な人間の目からすると、それが親切で妥当なことに思えるかもしれません。でも、エホバにとっては違いました。エホバは完全に公正な方なので、アダムのひどい不従順を単に見過ごさずというのはあり得ないことでした。

5. エホバがいつも正しいことをすると確信できるのはどうしてですか。

5 エホバが公正を無視して贖いなしでアダムの不完全な子孫が永遠に生きるようにしていたら、どうなっていたのでしょうか。神は別の時にも公正を曲げて正しくないことをするのではないかと考える人が出てくることでしょう。例えば、神は約束を守らないのではないかと考えるかもしれま

せん。でも、そうしたことを心配する必要はありません。エホバはご自分の愛する子の命という大きな犠牲を払ってまで公正なことを行いました。それで、エホバがいつも正しいことをすると分かり、安心できます。

6. 贖いからエホバの愛について何が分かりますか。 (ヨハネ第一 4:9, 10)

6 贖いからエホバが公正であることが分かりますが、何よりもエホバの愛の深さについて理解することができます。(ヨハ 3:16神は、自分の独り子を与えるほどに人類を愛したのです。そのようにして、独り子に信仰を抱く人が皆、滅ぼされないで永遠の命を受けられるようにしました。ヨハネ第一 4:9, 10神は独り子を世に遣わし、その方によって私たちが命を得られるようにしてくださいました。このことから、神が私たちを愛してくださっていることが明らかになりました。10 私たちが神を愛したというより、神が私たちを愛し、私たちの罪を償う(*私たちを神と和解させる)犠牲としてご自分の子を遣わしてくださったのです。これこそが愛です。を読む。) 贖いについて知ると、エホバが私たちに、いつまでも生きてほしいと思っているだけでなく、エホバの家族になってほしいと思っていることも分かります。考えてみてください。アダムは罪を犯した時、エホバの家族から追い出されました。それで、生まれた時からエホバの家族という人はいません。でも、エホバは贖いに基づき、信仰を抱いて従う人たちの罪を許し、やがて自分の家族に迎え入れてくれます。私たちは今でも、エホバと仲間のクリスチャンとの温かい関係を楽しむことができます。本当にエホバの優しい愛情に包まれています。(ロマ 5:10, 11敵だった時に神の子の死によって神と和解したのですから、まして和解した今、神の子の命によって救われるはずなのです。11 それだけでなく、私たちは、主イエス・キリストのおかげで、神との関係を喜んでいます。キリストを通して神と和解したからです。)

7. イエスが経験した苦しみは、私たちに対するエホバの愛を理解するのにどのように役立ちますか。

7 贖いがエホバにとってどれほど大きな犠牲であったかを考えると、エホバが私たちをどれほど深く愛しているかがよく分かります。サタンは、人は神に仕えるのが難しくなると神から離れると主張しています。それが間違っていることを示すため、エホバはイエスが死の前に苦しみ zu 遭うことを許しました。(ヨブ 2:1-5その後、真の神の子たち(c*へ語慣用句。神の天使たちを指す)が来てエホバの前に立つ日となった。サタンも来て、エホバの前に立った。2 エホバはサタンに、「どこから来たのか」と尋ねた。サタンはエホバに答えた。「地上を巡り、歩き回ってきました」。3 エホバはサタンに言った。「私に仕えるヨブに注目したか。地上に彼のような人はほかにいない。神に忠誠を尽くす(*非難されるところがない)正直な人で、神を畏れ、悪から離れている。今でも私に忠誠を尽くしている。あなたが私をけしかけ、不当にも彼を破滅させ(d*のみ込ませ)ようとしているのに」。4 サタンはエホバに答えた。「誰でも自分の身が一番(d*皮膚のためには皮膚)です。人は自分の命を守るために、自分が持つもの全てを差し出します。5 試しに、あなたの手を出して、彼の体に傷を負わせて(d*骨と肉にまで触れて)ください。彼はきっと面と向かってあなたを侮辱します」。ペテロ 2:21皆さんはこうした道に招かれました。キリストでさえ皆さんのために苦しみ、その歩みに皆さんがしっかり付いてくるよう手本を示しました。) エホバが見ている中で、イエスは反対者にあざけられ、兵士たちにひどくむち打たれ、杭にく

ぎ付けにされました。その後、愛する子イエスは苦しみの死を遂げました。（[マタ 27:28-31](#)）そして、イエスの服を剥ぎ取って緋色の衣をまとわせ、²⁹ いばらで冠を編んでかぶらせ、アシを右手に持たせた。そしてイエスの前にひざまずき、あざけって、「ごあいさつ申し上げます、ユダヤ人の王よ！」と言った。³⁰ それから唾を掛け、そのアシを取って頭をたたき始めた。³¹ 最後に、あざけってから、緋色の衣を剥ぎ取って本人の外衣を着せ、杭にくぎ付けにするために引いていった、³⁹ そばを通る人たちはイエスについて暴言を吐き、頭を振って）エホバは止めようと思えば、いつでもそうする力がありました。例えば、「神に気に入られているのなら、いま救い出してもらえばいい」と反対者たちが言った時、その通りにすることもできました。（[マタ 27:42, 43](#)「ほかの人は救ったが、自分は救えないのだ！ 彼はイスラエルの王だ。今、苦しみの杭から下りてきてもらおうではないか。そうすれば信じてやろう。⁴³ 彼は神に頼ったのだ。神に気に入られているのなら、いま救い出してもらえばいい。『私は神の子だ』と言ったのだ」）しかし、神が介入していたなら、贖いは支払われず、私たちには希望がなかったでしょう。それで、エホバはイエスが息を引き取るまで苦しみに遭うのを許しました。

8. イエスが苦しんでいるのを見て、エホバが心に痛みを感じたといえるのはどうしてですか。（挿絵も参照。）

8 神は全能だから感情を持っていない、とは考えないでください。神に似た者として造られた私たち人間に感情があるのであれば、神にも感情があるはずです。聖書にはエホバが「傷つ」いたり「悲し」んだりしたことが書かれています。（[詩 78:40, 41](#)人々は何度荒野で神に反逆し、砂漠で神を傷つけたことだろう。⁴¹ 繰り返し神を試し、イスラエルの聖なる方を悲しませた。）アブラハムとイサクの例も考えてみましょう。アブラハムは一人息子を犠牲として捧げるよう命じられました。（[創 22:9-12](#)ついに2人は真の神が告げた場所に着いた。アブラハムはそこに祭壇を作り、その上にまきを並べた。それから息子イサクの手足を縛り、祭壇のまきの上に寝かせた。¹⁰ そして短刀を手に取り、息子を殺そうとした。¹¹ ところが、エホバの天使が天から、「アブラハム、アブラハム！」と呼び掛けた。アブラハムは、「はい！」と答えた。¹² 天使はこう言った。「少年を傷つけてはいけません。何もしてはなりません。今、あなたが神を畏れていることがよく分かりました。あなたは自分の子、一人息子を私に与えることを拒みませんでした」。[ヘブ 11:17-19](#)信仰によってアブラハムは、試された時にイサクを捧げたも同然でした。約束を与えられて喜んだ人が、自分の独り子を捧げようとしたのです。¹⁸ 「あなたの子孫(d*種)と呼ばれる者はイサクから出る」と言われていたにもかかわらずです。¹⁹ アブラハムは、イサクが死んでも神は生き返らせることができる、と考えました。そして、いわばイサクを死から取り戻し、それは1つの例となりました。）短刀でイサクを殺そうとしていた時に、アブラハムがどんな気持ちだったか想像してみてください。エホバは、ご自分の子イエスが神を敬わない人たちによって痛めつけられ、殺される様子を見なければならなかった時、一層大きな悲しみを感じたに違いありません。（[jw.org](#)の「[その信仰に倣う アブラハム パート2](#)」の動画を参照。独り息子を与えることを拒まず、何があっても信仰を貫いた。アブラハムの苦悩はエホバの苦悩を表わす。）



エホバはイエスが苦しんでいるのを見て心に痛みを感じた。（8節を参照。）

9. ローマ 8章32, 38, 39節は、私たちへのエホバの愛の深さを理解するのにどのように役立ちますか。

9 贖いから分かるように、エホバ以上に私たちを愛している人はいません。家族や親友もかないません。（ローマ 8:32神はご自分の子をさえ惜しまず、私たち皆のために差し出してくださったのですから、子と共に、ほかの全てのものも親切に与えてくださるのではありませんか、38, 39 私は確信しています。死も、生も、天使も、政府も、今あるものも、これから来るものも、力も、39 高さも、深さも、ほかのどんな創造物も、主であるキリスト・イエスを通して示される神の愛から私たちを引き離すことはできません。を読む。）エホバは私たちが自分を愛する以上に私たちが愛しています。あなたは永遠に生きたいと思っっていますか。それ以上に、エホバはあなたに永遠に生きてほしいと思っっています。罪を許してほしいと思っっていますか。それ以上に、エホバはあなたの罪を許したいと思っっています。私たちがする必要があるのは、エホバに信仰を抱いて従うことによって、エホバからの素晴らしい贈り物を感謝して受け取ることだけです。贖いは本当に愛にあふれた神からの贈り物です。新しい世界では、エホバの愛についてさらに知ることができます。（伝 3:11神は全てを適切な時に美しくした(*に組織した/に整えた/に配置した)。神は人に、永遠を思う心さえ与えた。それでも人は、真の神の行いを決して知り尽くす(*を始まりから終わりまで決して知る)ことがない。)

贖いからイエスについて学べること

10. (ア) イエスは自分の処刑について特にどんなことを考えて苦しみましたか。(イ) イエスはエホバが正しいことをどのように証明しましたか。（「イエスは忠誠を貫いてエホバの正しさを証明した」の囲みも参照。）

10 イエスはお父さんエホバの評判を気に掛けている。（ヨハ 14:31しかし、私が父を愛していることを世の人々が知るために、父が命じた通りにしています。立ちなさい。出掛けましょう。）イエスは、エホバを冒瀆し人々を扇動したとして有罪となったらエホバの名前が傷つくと考えて、とても苦しみました。それで「父よ、もしできることでしたら、この杯を私から取り去ってください」と祈りました。（マタ 26:39そして少し進んでいき、ひれ伏して祈った。「父よ、もしできることでしたら、この杯を私から取り去ってください。それでも、私が望む通りにではなく、あなたが望まれる通りになりますように」）イエスは死ぬまで忠誠を貫くことによって、サタンがエホバについて言っていることが間違っていると証明しました。

イエスは忠誠を貫いてエホバの正しさを証明した

イエスは試練に遭っても忠実でいることによって、①人は試練に遭ったら神に仕えるのをやめるという悪魔の主張が間違っていることをはっきり示しました。（ヨブ 2:4, 5サタンはエホバに答えた。「誰でも自分の身が一番(d*皮膚のためには皮膚)です。

人は自分の命を守るために、自分が持つもの全てを差し出します。5 試しに、あなたの手を出し

て、彼の体に傷を負わせて(d*骨と肉にまで触れて)ください。彼はきっと面と向かってあなたを侮辱します」) また、②罪の原因がエホバではなくアダムにあったことを明らかにしました。そのようにしてイエスは、アダムが忠実でいたいと思っていたならそうできたことや、アダムの創造に関してエホバに何の落ち度もなかったことを証明しました。



イエスの犠牲はお父さんエホバへの愛の表れ。(10節を参照。)

11. イエスが人々を愛していることはどんなことから分かりますか。 (ヨハネ 13:1)

11 贖いから、イエスが人々のことを深く気に掛けていることも分かります。自分に従う人たちのことを特に気に掛けています。(格 8:31人が住むための地球を見て喜び、人間に深い愛情を抱いた。ヨハネ 13:1イエスは、過ぎ越しの祭りの前に、自分がこの世を去って天の父のもとに行くべき時が来たことを知った。そして、世にいて自分に従う人たちを、それまでも愛してきたが、最後まで愛した。を読む。) イエスは、痛みの伴う死をはじめ、いろいろ大変なことを地上で経験すると分かっていました。でも、エホバから与えられた地上での務めを果たす時、形だけで済ませるようなことはしませんでした。むしろ、心を込めて伝道し、教え、他の人に仕えました。亡くなる前の晩でさえ、時間を取って使徒たちの足を洗い、大切なことを教え、励みとなる温かい言葉を掛けました。(ヨハ 13:12-15イエスは弟子たちの足を洗い、外衣を着てから、再び食卓に着き、こう言った。「あなたたちにしたことが理解できますか。 13 あなたたちは私を『先生』や『主』と呼びます。それは正しいことです。私はそういう者だからです。 14 それで、主であり先生である私があなたたちの足を洗ったのであれば、あなたたちも足を洗い合うべきです。 15 私はあなたたちのために模範を示しました。あなたたちも同じようにするためです。)」さらに、杭に付けられている間、一緒に杭に掛けられた犯罪者に希望となる言葉を掛け、母親の世話を仲間に託しました。(ルカ 23:42, 43さらに言った。「イエス、王国に入る時に私を思い出してください」。 43 イエスは言った。「今日あなたに言います。あなたは私と共にパラダイスにいることになります」。ヨハ 19:26, 27イエスは、自分の母親と、愛する弟子がそばに立っているのを見て、母親に言った。「見なさい(d*女性よ、見なさい)、あなたの子です！」 27 次に、その弟子に言った。「見なさい、あなたの母親です！」 その時から、その弟子はイエスの母親を自宅に引き取った) このように、イエスの深い愛はイエスの死だけでなく、地上での生涯のいろいろな場面に表れています。

12. イエスはどんな意味で、今でも私たちのために犠牲を払っていますか。

12 **キリスト**は、**死んだのは「一度限り」**ですが、**今でも私たちのために犠牲を払っています。**（ロマ 6:10キリストは罪に関して一度限り死にましたが、神に関しては生きているのです。）どのようにでしょうか。**時間とエネルギーを惜しまず働き、私たちが贖いの恩恵を受けられるように**してくれています。本当に**忙しく活動**しています。**王、大祭司、会衆の頭**として奉仕しています。（コリ 15:25神がキリストに全ての敵を踏みつけさせるまで、キリストは王として治めるのです。エフ 5:23夫は妻の頭だからです。キリストが会衆という体の頭であるのと同様です。キリストは**会衆の救い主**でもあります。ヘブ 2:17従って、イエスは全ての点で自分の「兄弟たち」のようにならなければなりません。憐れみ深く忠実な大祭司となって神に奉仕し、人々の罪を償う（*人々を神と和解させる）犠牲を捧げるためです。）天に行く人と大群衆を集める活動を担当し、それは**大患難が終わる前に完了**します。***①エフェソス 1章10節**神は、定められた期間が満ちる時に物事を管理し、全てのもの、**天のものと地のものをキリストの下に集めます。**全てのものがキリストに従うのです。でパウロが書いた「**天のもの**」を**集める**ことは、②マタイ 24章31節そして人の子は、大きなラッパの音と共に天使たちを遣わし、天使たちは、四方から、**天の果てから果てまで、選ばれた者たちを集めます。**とマルコ 13章27節そしてその時、人の子は天使たちを遣わし、四方から、**地の果てから天の果てまで、選ばれた者たちを集めます。**でイエスが語った「**選ばれた者たち**」を**集める**こととは**異なります。**①パウロが言っていたのは、エホバが**イエスの共同統治者を聖なる力によって選ぶ時**のことです。②イエスが言っていたのは、**選ばれた者たちのうち地上に残っている人が大患難の間に天に集められる時**のことです。（マタ 25:32全ての国の人々が彼の前に集められ、人の子は、羊飼いが羊をやぎから分けるように、人々を分けます。マル 13:27そしてその時、人の子は天使たちを遣わし、四方から、地の果てから天の果てまで、選ばれた者たちを集めます。）また、**この終わりの時代に神に忠実に仕える人たちが、信仰を強める食物を得られるように**しています。（マタ 24:45主人が、召し使いたちに適切な時に食物を与えるため、彼らの上に任命した忠実で思慮深い奴隷はいったい誰でしょうか。）そして、**千年統治の間ずっと私たちのために奉仕し続け**ます。エホバは**私たちのためにご自分の子をこれほどまでに与えてくださった**のです。

学ぶのを決してやめない

13. どうすれば私たちへの神とキリストの愛について学び続けることができますか。

13 **エホバ神とキリスト・イエスが私たちのためにしてくださったこと**について**じっくり考え続けるなら、エホバとイエスの愛について学び続けることができます。****今年の記念式**の時期に、**福音書を丁寧に読む**のはどうでしょうか。**一度に多くの章を読もうとはしない**でください。**ゆっくり読んで、エホバとイエスを愛する理由**がもっとないかを**探し**ましょう。そして、**学んだこと**をぜひ**ほかの人に話**してください。

14. 調査することは、贖いや他の教えについて学び続けるのにどのように役立ちますか。（詩編 119:97, 脚注）（写真も参照）

14 **バプテスマを受けて何年もたつと、神の公正、愛、贖いなど、なじみ深いテーマ**について**新しい発見ができるのだろうか**と思うかもしれません。でも、こうしたテーマについて**学べることは**

いくらでもあります。どうしたらよいでしょうか。エホバの証人の出版物にあるたくさんの資料を十分に活用してください。よく理解できない聖句があったら、調査しましょう。そして、エホバ、イエス、示してくださった愛について発見したことや学んだことをその日1日じっくり考えてください。（詩編 119:97と脚注私はあなたの律法を愛してやまない！ 一日中じっくり考える(*学ぶ)を読む。）



バプテスマを受けて何年もたっているとしても、贖いへの感謝を深めることができます。（14節を参照。）

15. 聖書から宝を探し続けることが大切なのはどうしてですか。

15 聖書を読んだり調査したりするたびに驚くようなことや新しいことを発見できないとしても、がっかりしないでください。私たちは砂金を探す人に似ています。そのような人はごく小さな金の塊を根気強く何時間も何日も探します。そこまで頑張るのは、少しの金にも大きな価値があると考えているからです。聖書から見つかる真理の宝はどれももっと大きな価値があります。（詩 119:127 私はあなたのおきてを愛する。金よりも、それも純金(*精錬された金)よりも。格 8:10 銀の代わりに私の指導を、最良の金よりも知識を選べ。）それで、毎日聖書を読んで、根気強く宝を探しましょう。（詩 1:2 その人はエホバの律法を喜び、昼も夜も小声で読む(*思い巡らす)

16. エホバとイエスにどのように倣えますか。

16 学ぶ時、実践する方法を考えましょう。例えば、誰にでも分け隔てなく接することによって、エホバの公正さに倣えます。エホバの名前のために苦しみを受けることや、仲間のために力を尽くすことによって、天のお父さんとほかの人々へのイエスの愛に倣いましょう。また、イエスに倣って伝道するなら、贖いというエホバからの最高の贈り物を受ける機会を人々に与えることができます。

17. 次の記事ではどんなことを考えますか。

17 贖いに関する理解や感謝が深まれば深まるほど、エホバとイエスへの愛が深まります。そうすると、エホバとイエスも私たちのことをもっと愛してくれます。（ヨハ 14:21 私のおきてを受け入れてそれに従う人は私を愛しています。さらに、私を愛する人は父に愛されます。そして私はその人を愛して、自分のことをはっきり知らせます」。ヤコ 4:8 神に近づいてください。そうす

れば、神は近づいてくださいます。罪人たち、手を清めてください。優柔不断な人たち、心を清めてください。) それで、エホバが与えてくれているものを活用して、贖いについて学び続けましょう。次の記事では、①贖いが私たちの幸せとどう関係しているか、②エホバの愛にどのように感謝を表せるかを考えます。

贖いからどんなことを学べますか

1. エホバの公正について

・S04 不完全な人間が、エホバはアダムの子孫の心の正しい人が永遠に生きられるようにすればよかったのではと思えても、エホバは完全に公正な方なので、アダムのひどい不従順を単に見過ごすというのはあり得ないことだった。

・S05 エホバが公正を無視して贖いなしでアダムの不完全な子孫が永遠に生きるようにしていたら、神は別の時にも公正を曲げて約束を守らないのではないかと心配する人もでてきたはず。しかしエホバはご自分の愛する子の命という大きな犠牲を払ってまで公正なことを行ったことにより、いつも正しいことをすると分かり、安心できる。

2. エホバの愛について

・S06 アダムは罪を犯した時、エホバの家族から追い出されたが、エホバは贖いに基づき、信仰を抱いて従う人たちの罪を許し、やがて自分の家族に迎え入れてくださる。私たちは今でも、エホバと仲間のクリスチャンとの温かい関係を楽しむことができ、エホバの優しい愛情に包まれている。贖いについて知ると、エホバが私たちにエホバの家族になってほしいと思っていることも分かる。

・S07 エホバが見ている中で、愛する子イエスは反対者にあざけられ、兵士たちにひどくむち打たれ、杭にくぎ付けにされ、その後、苦しみの死を遂げた。エホバは止めようと思えば、いつでもそうできたが、イエスが息を引き取るまで苦しみに遭うのを許されたので、イエスによって贖いを支払うことができた。贖いがエホバにとってどれほど大きな犠牲であり、そのことを考えるとエホバが私たちをどれほど深く愛しているかがよく分かる。

3. イエスの愛について

・S10 イエスは死ぬまで忠誠を貫くことによって、サタンがエホバについて言っていることが間違っていると証明し、お父さんエホバの評判を気に掛けていることを示された。

・S11 イエスは、痛みの伴う死をはじめ、いろいろ大変なことを地上で経験すると分かっていたが、エホバから与えられた地上での務めを果たす時、形だけで済ませるようなことはせず、むしろ、心を込めて伝道し、教え、他の人に仕えた。亡くなる前の晩でさえ、使徒たちの足を洗い、励みとなる温かい言葉を掛け、大切なことを教えた。一緒に杭に掛けられた犯罪者に希望となる言葉を掛け、母親の世話を仲間に託した。イエスの深い愛はイエスの死だけでなく、地上での生涯のいろいろな場面に表れていた。